

森をつくり 自然を守り 地球にやさしい環境を —安平町グリーンダム植樹祭—

今、私たちの住む地球にとって大きな危機が訪れています。その対策が急がれているのが地球温暖化防止です。安平町では、5月に自然環境保全と地球温暖化防止に向けて「安平町グリーンダム植樹祭」と「瑞穂ダム植樹祭」、「エネモの森づくり」の三つの植樹祭が行なわれました。参加した多くの人たちは、自然環境保護と自然の大切さを願い、心を込めて植樹をしました。ここで、これらの植樹祭について紹介します。



三谷学校のドングリの子孫を残す会事務局長（右）から瀧町長に苗木の贈呈



旧追分町では、安平ダム建設の中止を受け、平成17年に町の森林保全と水資源の確保、自然環境保護を目的として、従来からある構造物のダムにより貯水するという考え方ではなく、森林の持つ多面的機能を活用し、保水力を高め水を貯えるという考え方のグリーンダム構想を作りました。この構想は、合併後も安平町に引継がれ、本町の地域環境を積極的に生かし、グリーンダムとしての森づくりや緑（自然）の復元、環境学習の場とともに森林空間を活用して森林浴・休養もできる町民の憩いの場となるよう取り組んでいく事業として進めているものです。このグリーンダム構想に基づき、今年をグリーンダム構想元年と位置付けました。

今、地球温暖化防止が叫ばれる中、世界中の国や自治体、企業を始め個人にいたるまで、環境対策に向け様々な取り組みがなされています。そのような中、今年7月7日から9日までの3日間環境問題を主なテーマとして「北海道洞爺湖サミット」が開催されることから、サミット開催の記念事業の一環として、「安平町グリーンダム植樹祭(町

全国植樹祭開催一周年記念としてエゾヤマザクラを植樹 —瑞穂ダム植樹祭—

北海道を元気にしたい——そんな思いから社会貢献活動の一環として、北海道応援基金助成活動を行なっている「株式会社ニトリ」（札幌市手稲区）の支援を受け、瑞穂ダム植樹祭（今年で2年目）が5月25日に関係者、町民などおよそ30名が参加して行われました。植樹地は、昨年に引き続き瑞穂ダム東側の一帯で、この日、株式会社ニトリから寄贈されたエゾヤマザクラ160本の苗木を参加した人達の手で次々と植樹されました。なお、今回の植樹は、同社が進める2008年度の事業公募で安平町の取り組みが評価され、実現したものです。

